



熊本支部報

(公社)日本山岳会熊本支部

第60号

令和6年9月10日発行

編集・発行者 田北 芳博

(公社)日本山岳会熊本支部事務局

熊本県玉名郡長洲町宮野 2488-2

城戸邦晴 方



阿蘇谷の夜明け（兜岩展望台から） 9月上旬

目 次

ページ

1	(1) 支部長再任と新年度のご挨拶	支部長	土井 理	②
	(2) 事務局長就任にあたって	事務局長	城戸 邦晴	②
2	残雪期富士登山報告		土井 理	③
3	春の登山教室 九重山縦走		中村 寛	⑥
4	夏の例会 渡神岳		戸上 貴雄	⑨
5	樺原湿原自然観察会		城戸 邦晴	⑪
6	登山技術 沢登り講習会報告（鳴子沢）		土井 理	⑬
7	山の日登山祭 in 菊池市 鞍岳		城戸 邦晴	⑯
8	令和6年度ビールパーティ報告		城戸 邦晴	⑯
9	会員の異動		城戸 邦晴	⑳

1— (1) 支部長再任と新年度のご挨拶

熊本支部長 土井 理

日本山岳会は現在、橋本しおり新会長のもと、大きく変貌しようと、大きな改革の岐路に立っています。会員数減少の加速を何とか抑制すべく、また現在ある赤字決算を黒字にするべく、多くの変革が行われています。

多くの一般登山者の目に止まる様に、本部では非会員向けの登山教室開催を開始。 経費を抑えるべく、会議は大部分が WEB 会議に変更。

入会や退会の書類は、紙の郵送書類から→日本山岳会本部ホームページでの WEB 申請が可能となりました。

新入会員を増やすべく、新入会員入会金も 20000 円から 10000 円に減額されました。

現在会員の方の手元に郵送されております月刊冊子の「山」は、希望者には郵送料を頂き紙媒体で郵送も行うとの事ですが、期日は不明ですが、原則は今後 WEB 配信に移行する予定となっています。

今までなかった日本山岳会東京支部が結成される事となりと同時に、関東全都県の日本山岳会支部が共同で動く仕組みが作られ、本部ホームページ上に記載されています。

既に我が国の現在世論は、新聞や雑誌の紙媒体で動いておらず、SNS や WEB で大きく動いているのが現状です。新聞社に至っても紙での発行は激減し、新聞社の WEB 新聞が大部分を占めています。

今まで変革をしていなかった事が、大きくツケとして現在のしかかってきている状況になっている様です。この変革の荒波を、熊本支部としても何とか乗り切らないといけない状況にあります。

日本山岳会の意義はどこにあるのか？考え、蓄積された知識と技術に集約されるのではないかと思います。先人達からの知識と技術の伝達蓄積が、事故の無い安全登山や、より難易度の高い登山の成功に役に立っているのではと考えます。会員皆様や山に関与する多くの方の、安全登山や山行の為に、蓄積された知識や技術の伝播になお一層の努力をして行きたいと思っております。

城戸事務局長をはじめ、役員の皆様には大きなご負担やご迷惑をかけるかもしれません。今年も事故の無い安全登山を心がけたいと思います。支部活動には会員の皆様のご協力、ご助力が必要ですので今後とも何卒宜しくお願ひ申し上げます。

1— (2) 事務局長就任に当たって

事務局長

城戸邦晴

この度、山本さんの後任として事務局長に就任しました。若くて優秀な方が就くべきと思いましたが、都合のつく人がおらず、年輩である私が勤めることとなりました。熊本支部のお役に立てるよう、そして多忙な土井支部長のご負担を軽くするように努めたいと思っていますので、皆様のご協力をよろしくお願い致します。

私が山に登る人たちに伝えたい気持ちを言葉で現わすと、次のようになります。

『登りたい山、美しい山、感動の山、自分の山を見つけましょう』

一生の終りが近づいた時、過去を振り返って「登山を経験したことで、自分の人生は成功であった」と思えるような、そんな登山をやりませんか（「 」内は辻まことの言葉を引用しました）。

山の楽しみはさまざまです。静かな山、低山を好む人もいれば、険しい登り甲斐のある山を目指す人もいます。共通しているのは「感動」を求めていることでしょう。でも素晴らしい景色に遭遇してもそのとき疲労困憊していたら感動どころではありません。登山を十分に楽しむにはどうしたらよいでしょうか。

登山は体力が重要です。でも体力に自信がない人は技術でカバーしましょう。その技術が不足していても知識があればカバーできます。そこでこれらを学ぶ場が必要となります。山岳会はそのためにあります。例会や登山教室などの山行で学ぶことができるのです。

「登山教室」で正しい登山技術・知識を身につけましょう。登山教室は一般参加もあります。非会員には「日本山岳会はお手伝いします。一緒に登りましょう」と呼びかけて、一方会員は、山岳会の人は歩き方から違う、と思われるようレベルアップの場とするのです。

山を登る人がまず身につけるべきは山の歩き方です。登り、下り、岩場の道、ガレ・ザレ場、平地とは異なる登山道をどう歩くか、これが最も必要な技術です。登山は100%歩くスポーツです。歩き方が正しくないと悪い結果に結びつきます。疲労、事故、ケガ、遭難へとつながります。正しい歩き方で、軽快に登りましょう。楽しい登山をして、山の感動を友人や家族など他の人にも伝えてほしいのです。そして会員加入へ結びつけしましょう。会員増加へ、ただいま熊本支部は32人ですが、もっともっと増やそうではありませんか。

土井先生というエキスパートが支部長を務めておられ、極めて多忙なのに山岳会の世話をために励んでおられる、ご負担を少しでも少なくするために力を尽くすのが自分の役割と心得ます。必要な計画立案・実行・まとめ・反省を遂行していかねばならないと思っています。

山岳会はどこも高齢者が多くなっています。企画はハイキング中心になりがちですが、若い人も楽しい、面白い山を探して登りましょう。ときには北アルプスへ、南アルプスへ、高山植物の咲くお花畠の美しい山へ、はたまた味のある静かな山へ。

山岳会の発展にはリーダーが必要です。正しい技術・知識を教えられる指導者が必要です。皆さん一緒に、高みへのステップを踏んで登って行こうではありませんか。

2 日本山岳会熊本支部 残雪期富士登山報告 担当 土井 理

2024年4月27日-30日（4日間） 参加者：城戸邦晴、中村寛、浦川留美、土井理の4名。

富士吉田口の北口本宮富士浅間神社0合目から残雪期富士登山し、山頂登頂致しましたので報告致します。

4月27日雨→曇り、28日晴れ、29日曇り、30日雨→曇り 何とか登頂ができる天候でした。富士スバルラインは、4月26日8:00迄、土砂崩れで通行止め。26日片側通行で開通しましたが、下山時30日は雪崩警報でスバルラインは再び通行止めになりました。

種々の問題もありましたが、多くの方々の心遣いで無事登頂できました。感謝。

1日目 4月27日（土）熊本駅新幹線待合室、中村、土井、浦川3人集合し出発。

07:42発熊本駅 さくら542号 城戸は久留米から同じ新幹線に乗車。

10:13着岡山駅乗り換え 10:36発 ひかり506号 13:57着三島駅 14:20発三島駅南口2番バス乗り場特急三島河口湖ライナー乗車 高速バスは8割が外国人。

15:40着 富士急ハイランドバス停到着

富士急ハイランドから富士吉田ユースホステルまでは徒歩。向かう途中に同日最終日の、ウルトラトレ

イルマウントジ（UTMF：165.3km 累積標高差約 7614m）出場ランナーたちの雄姿に遭遇し、応援しつつユースに向かった。

16:30 頃ユース到着。ユースの宿泊者は我々ともう1組のみ。宿泊料金もユース女将さん的心遣いで会員料金にて宿泊させて頂いた。手土産の「黒糖ドーナツ棒：くまもん付き」も功を奏したかもしれない。宿泊した部屋からは「月と富士」と言う雄大な山景を見る事が出来た。夕食は近くの中華料理店「青龍飯店」で豪勢に夕食を摂った。

2日目 4月28日(日) 0合目(北口本宮富士浅間神社)~5合目(佐藤小屋:標高 2230m)迄

04:30 起床 5:00 頃ユースホステル出発登山開始 北口本宮富士浅間神社:標高 850m の参道を進み、本堂に拝殿し山行の無事を祈願 佐藤小屋までゆっくり登って行った。中の茶屋はまだ締まっていたが臨時のトイレはあった。馬返しまで来ると沢山の車が停車していた。多くの方が 5合目までの登山やトレランをしておられた。馬返しで休んでいると、馬返しの茶屋「大文司屋」のご主人が水を抱えて店に来られた。お店を 28 日から数日開けるとのこと。御主人としばし歓談、佐藤小屋へと足をすすめた。1合目、2合目、3合目、4合目と朽ち果てた小屋の後や案内掲示板を見つつ佐藤小屋に向かった。12 時過ぎには佐藤小屋に到着した。少しゆっくりして、翌日の計画を話しつつ歓談した。ここも手土産の「黒糖ドーナツ棒：くまもん付き」も功を奏したかもしれないが、通常有料の水を 4 人全員に無料でご主人から頂いた。感謝。ガイド登山の一行も小屋に入って来て、同様に翌朝山頂を目指すとの事であった。18 時に夕食：すき焼きを食べさせて頂いた。奥さんが富士吉田から上がって来られて、宿泊者がいないからとなると 3 部屋も使用させて頂いた。更に翌朝の弁当がパンの予定だったが、「朝からいなり寿司作ってあげる」と、翌朝食をいなり寿司 + お味噌汁に変更して頂いた。

3日目

4月29日(月祝日)5合目(佐藤小屋 2230m)~吉田口山頂(3715m)~天候次第剣ヶ峰(3776m)

3:30 起床朝食 登山に不要な荷物は佐藤小屋にデポさせて頂く。

3:50 登山開始 ヘッドライト装着し登山開始した。7 合目までは雪は解け夏道登山道を登って行った。佐藤小屋すぐ上から登山道の日陰は雪で覆われていた。5:35 標高 2698m の花小屋より上部は雪で覆われており、ここでアイゼン装着し雪面を直登する事とした。標高が高くなるに従いやや時間がかかる様になり、11:00 過ぎに富士吉田口山頂鳥居をくぐり、山頂に到着した。山頂の風はあまり強くなかったが、予報通り曇りの天気で、下界の景色は堪能できなかった。曇りなれど紫外線は強く、サングラスを取る事は出来なかった。浦川隊員は元気に 1 番で登頂、中村隊員が 2 番目、土井が 3 番目、城戸隊員は少し疲れた様子で、見える範囲で約 30 分程度遅れて山頂に着いた。天候が下り坂の予報の為、剣ヶ峰やお鉢周りはあきらめて 11:50 下山に着いた。

下山は 8 合目付近までは通常に雪面を下山した。雪が解けて夏道登山道が 8 合目付近から顔を出していた。隊員達からの登山道を行きましょうの声掛けで、夏道登山道を下山開始したが、これが間違いであった。

元来、雪山登山は雪面を登り、雪面を下るのが大原則であるが、これを忘却し安易に夏道登山道で下山してしまった。この為、下山に通常より多くの時間を費やし、城戸さんが 7 合 5 勺付近で転倒する事となった。城戸さんが転倒された直後は動けない状態になった。態勢を整えたら何とか動ける状態だった。左下肢が痛いとの話だったが歩けるとの事で何とか皆無事に下山した。隊員の皆さんには、私の判断の間違いで、多大な迷惑をかけてしまった。反省しかない。山頂でゆっくりするつもりで、佐藤小屋に 2 泊す

る予定でいたので、何とか 17:30 頃には佐藤小屋に着くことが出来た。7 合目からは登って来た道を下山するので、各自下山するのに問題無いと考え、単独行動も可能としたが、最後から降りて来た土井が到着した時に、まだ城戸さんが到着していなかった。一瞬遭難も頭をよぎるが、幸い電話も通じ無事に下山した。途中で少し道を間違えたらしかった。この日宿泊は我々のみで、夕食にカレーを頂き、プリンも頂き、明日のタクシーの予約をして頂き、皆疲れていたので早く就寝についた。夜はどしゃぶりの雨となった。登り 7 時間、下り 5 時間の山行となってしまった。深く反省。

4 日目 4 月 30 日、朝から雨、7 時朝食、甲州名物ほうとう鍋を頂いた。沢山食べおわった頃、タクシーからの連絡。雪崩警報でスバルラインは通行止め、車は入れないと。事。

雨の中を富士吉田までの下山を覚悟。と、佐藤小屋のご主人が「車でタクシーが入って来れる所まで送ってあげるよ」と、我々のみの宿泊だったので、小屋を締めて富士吉田の自宅まで帰るので送ってあげるとの事。超超ラッキー。佐藤小屋の車だけ通行できる滝沢林道を、タクシーが入って来れる林道のゲートの所まで送って頂ける事となった。またまた感謝。中の茶屋から滝沢林道が続くが、中の茶屋の少し上までタクシーが迎えに来てくれた。

佐藤小屋のご主人や奥さんにお礼を言って、タクシーで富士吉田の富士急ハイランドバス停近くの、ふじやま温泉に送って頂いた。9:00 過ぎについたが、温泉は 10 時からで、仕方なく入り口でオープンを待つ。10:00 からふじやま温泉で汗を流した。とそこに、佐藤小屋のご主人と奥さんも来店。驚きの連続であった

富士急ハイランドバス停より、バスで三島駅に帰り帰途に着いた。三島駅から自由席新大阪駅乗り換えで熊本駅まで新幹線。途中の久留米駅で城戸さん下車。熊本駅で解散した。



UTMF ランナーの雄姿



富士吉田 5 合目



ユースホステルからの月と富士



反省点

1. 雪山の原則を破った点。雪山は雪面を安全に登って雪面を下るのが原則。
岩の出ているアイスマックスは時間がかかるし、技術的にはさらに高度となる。
下山に長時間要してしまった。転倒も出現した。
2. 集団行動の原則を守らず、下山ルートはわかるものと判断し個別行動にしたところ、少しではあったが道迷いが出現した。

良かった点

1. 何とか天候が保たれた。
2. ユースホステルの好意、佐藤小屋の方々の多大なる好意があった。
3. 時間をゆっくりしていた為。無理の無い山行が可能となった。
無事に下山し帰って来た事に感謝です。



3 春の登山教室 九重山縦走 5月26日(日)

担当 中村寛

*集合場所：6時半 大津町生涯学習センター駐車場 中型バス貸切

8時、牧ノ戸登山口着～11時、久住山頂上～12時半、鞍部で昼食～後稻星山着～13時半、鳴子山着
15時半、一番水登山口着～17時半、大津町生涯学習センター駐車場着。

*参加者 城戸邦晴、赤星隆弘、中林輝幸、武田偉幸、森美代子、木下昭二、田北芳博、池田清志、
池田のり子、石井文雄、川上春枝、本田敦子、安場俊郎、土井理、原田政治、中村寛、
一般参加者 上村俊好、桐原一行、吉永きよ子、川原喜久世、堀三重子、計21名

*行程 牧ノ戸登山口(1330m)～久住山(1787m)～稻星山(1774m)～鳴子山(1643m)～一番水登山口
(872m)



*くじゅう連山では、年間で一番登山者が多い時期です。牧ノ戸登山口にバスが着いたのは 8 時過ぎ、既に駐車場は満杯で道路わきには沢山の路上駐車が見受けられた。昨年まではくじゅうの山開きは 6 月の第一日曜に行なわれていた。“何も登山者が一番多い時にしなくても”と思っていたところ、今年から 4 月に変更されました。途中バスの中で、城戸さんが登山のマナーについて、土井先生が登山での行動食について、文書を配っての説明がありました。

*8時30分 牧ノ戸登山口発

登山口ではそれぞれ各自で準備運動をしてもらう。3班に分けて私の組から先に登り始める。ここが初めてという人は無く、皆慣れていて難なく沓掛山で先頭の組を交代した。ここからは登山道の両側にピンク色のツクシドウダンが咲いている。その近くには提灯を下げたようなシロドウダンも見られた。



シロドウダン ？

(ドウダンの花は、池田さんの写真をお借りしました)



ツクシドウダン

* 11 時 過ぎに久住山着。記念撮影後鞍部で食事、稱星山、鳴子山、へと下って行きました。

*9時40分 扇が鼻分岐着

腰掛ける岩もありここで一休み、今日は行かない扇が鼻からは、幾人もの登山者がおりてくる。ここからは両脇にミヤマキリシマが見られるようになってきた。星生山の西側の斜面には群生が見られる(次頁左上の写真)。ミヤマキリシマは本土の山には見られず、この時期、花を目当てに九州外からの登山者も多く見受けられる。扇が鼻分岐から少し歩くと西千里ヶ浜に着く。左手に星生山の稜線を見ながら歩く。正面にはこれから登る久住山、左手は星生崎の岩場が見える。(次頁右上下の写真)ここを歩くと、何故か気持ちが踊る。空が晴れいると特に気持ちがいい。星生山の満天の星空に映える姿や朝駆けの写真をよく見かける。星が生まれる山、その名前の由来は、「法性」=万物のあるがままの姿、からきています。



* ミヤマキリシマが楽しめたのは、ここまで久住山から稻星山へのルートは虫の害で壊滅状態でした



久住山頂上での記念撮影 (撮影原田政治)



4 夏の例会 渡神岳 1150m (日田市) 2024(令6).6.16 (日) 企画実行報告/戸上貴雄

当初の肩書きは「春の例会」だったが、6月を春と認識する者は皆無であろうと思われたため、参加案内時には「夏の例会」と改めさせていただいた。

本番に先立つ4月30日(火)に、4人2台で下見を実施した。

県道9号近くの石建峠に一台をデポしておいて、同県道の延伸先にある「スノーピーク奥日田キャンプ場(旧椿ヶ鼻ハイランドパーク)」近くの登山口へ移動して縦走するつもりだった…が、現地へ臨んでみると、石建峠から先の県道は数年前から通行禁止(不能)になっていることが判明した。

その他諸々のハプニングがあって時間を消費してしまい、スノーピーク奥日田キャンプ場側登山口を確認するだけで、実際に山を歩いて下見することなく、せいぜい本番時の車路ルートを検討するに止まった。

行事担当者としては不安になり、5月2日(木)に本番時に歩く予定のコースを一人で歩いてみて、やっと安心出来た。

(縦走出来ないため、渡神岳山頂まで往復するコースに決めた!)

この際、たった一人だけ出くわした登山者の「静かで、綺麗ないい山ですね」という言葉に思わず頷いた。

本番の6/16(日)、参加者全14名が熊本市北区役所駐車場へ6:55集合し、3台に分乗して登山口のスノーピーク奥日田キャンプ場の少し先にある登山口へ向かった。



カナクギノキの葉に乗る

4/30 渡神の化身



ヤマアジサイ

9:02 出発。結構な傾斜のある杉植林地を、葉っぱだけとなつたツクシショウジョウバカマを眺めながら、ひたすら上へ上へと歩を進めると、難なく 999.9m ピーク(通称・大北向)へ着く。

ここから先、渡神岳北西側の鞍部までは緩い標高差のアップダウンの繰り返しとなる。

ダラダラ歩いた先のヒラキ坊主(約 1000m)から降下し、キャンプ場からの直接コースと合流、また杉林の中を進んで林道(通行禁止の県道 9 号が分岐延伸した感じ)へ出た地点が地蔵様峠(940m)である。

さらに自然林の中へ入り、暫く歩くと再度林道に出て(920m)これを横断して進むと 955m ピーク(通称・赤石山)に達する。この間にキオンやオオマルバノテンニンソウがあちこちで葉を広げているが、花は秋まで待つことになる。ここから先、渡神岳北西側鞍部までが落葉樹の森の真骨頂なのだが、5月初旬にはあんなに明るく爽やかな黄緑色一色の森だったのに、緑を濃くしたやや暗い山道をトラバース気味に進む。

ただ湿度も低く、時おり吹き抜ける涼風が心地よく、石礫地に林立するウリノキ・ケヤキ・シオジ・チドリノキなどを見ながら鞍部(1000m)へ上がったのが 11:35 だった。鞍部から山頂までの高度差約 150m を一気に駆け上がり(ウソです)、花の蕾を付けたヤマシグレの群生地を抜けて山頂に出たのが丁度 12:00 頃。

私以外の方々は、周りが樹木に遮られて殆ど展望のないことにやっと気付いた様子で、やや残念な顔付きだったが、あえて何も言わずにやり過ごした。何事も全て神様の思し召しなのだから…

参加者 赤星隆弘(車)・池田清志・池田のり子・石井文雄・石坂征勝・川上春枝・武田偉幸・土井理(車)・戸上貴雄・中林暉幸・中村寛(車)・本田敦子・松尾重勝・森美代子

参加費として徴収 1,300 円 × 参加者 14 名 = 18,200 円

本番時のガソリン代として車提供者 3 名へ支払 9,900 円

下見時のガソリン代として車提供者 2 名へ支払 8,300 円

計 18,200 円



9:02 登山口出発、14:28 帰着

全所要 5 時間 26 分

累積標高差 : 568m





5 横原湿原自然観察会

2024, 7, 21 (日)

担当 城戸邦晴

「九州の尾瀬」という宣伝文句にひかれて集まった一般参加者は 17 人に登った。日本山岳会をふくめて 29 人の車両 7 台で、7 時半に北区役所集合・出発、有明海湾岸道路を走って、佐賀市内を抜け横原湿原に到着したのは 11 時過ぎ。2 班に分けて歩き始めるとすぐコオニユリが目についた。沼にはヌマトラノオ、ユウスゲが続々とあらわれた。アキノタムラソウが多い。木道を歩いていくと、白いサギソウが一輪、見事に咲いていた。モウセンゴケをさがすと見つかった、小さな白い花が 3 輪あった。オオバノトンボソウ、コバギボウシ、ゲンノショウコも一輪あった。ここはまさに植物の宝庫だった。木道から出たらミヤコグサ、ヒメキンミズヒキもあった。番人小屋附近の水面にジュンサイがびっしりとまさに湿原風景だった。時間がきて沼を去ろうとした時、発見した声がした「ヒツジグサ！」まだ 12 時半だが、3 輪の咲き掛けの白い花があった（ヒツジグサは午後 2 時ごろ咲くことからその名がある）。葉が切れていた。

ここはトンボも多い。キイトトンボ、ハラビロトンボ、そしてハッチョウトンボ。もっと多くのトンボが見られるのだが、幅広く観察するには時間が短かったようだ。

雨が降ってきた。木道の先に森があり、木の下で雨宿り、上がったり振ったりしてやっと止んで 13:00～13:30 昼食をとった。一般の参加者は駐車場横の東屋で、会員は木陰で食べていた。

13:40～14:10 観音の滝を見学した。移動距離 5 キロほどの所にあった。ここは日本の滝百選にも選ばれた名瀑布だが、近くにそば屋が 1 軒あるだけ。ここで全員の集合写真を撮った。

滝の水が流れる川が峡谷となっており橋が架かっている。この橋から滝の全容が見えるが、両岸には樹が繁り、竹が伸びてきて肝心の滝が見にくい。遊歩道が滝つぼまであるのだが最近の豪雨で道が崩れて利用禁止だった。一番いい風景が見られないとはもったいないと思う。滝の上流に下りる道があったので皆そこを下りて行った。

途中小さな祠があつてお賽銭をあげて祈り、先へ進むと巨岩が並ぶ谷へ出た。足元にしぶきをあげて多量の水が流れていた。「世界滝登りフェスタ」が毎年あるらしいが、どこを登るのだろう、一度見てみたいものだ。渓流はさすがに涼しかった。

滝の駐車場でメンバーが物損事故にあつトラブルがあつて(完全な被害者)、出発が遅れ、2 時 40 分帰路についたが高速道路経由で熊本北区役所着は 5 時を回っていた。

自然観察会はお目当てのサギソウが見られて成功であったが、車 7 台はやはり厳しく、携帯と無線を使ったけれども統制がうまくゆかなかつた。この人数ではやはり貸切バスが必要だろうと反省した。

参加者

会員会友 ○三宅厚雄、城戸邦晴、○中林輝幸、石坂征勝、○田北芳博、○山本直

前田節子、○中村寛、渡邊心暖、○池田清志、○松尾重勝、浦川留美 (○車提供者)

一般参加者 平野忠義、尾方 隆、北村ヒロ子、古賀あけみ、高宮由香、松本博子

原田良一、原田すず子、松下 薫、工藤幸子、中村たまお、吉本元美、栄木美智

子、有馬小枝子、甲斐いくよ、牧野寛治、平江洋一



(写真は池田さんから提供いただきました)

6 日本山岳会熊本支部 登山技術沢登り 講習会報告 担当 土井 理

期日：2023年7月28日（日曜日）晴天

場所：九重鳴子沢 沢登りとして初級のルート 鳴子川を遡行した。

菊池近隣在住の方が3名、熊本市在住が3名の為 菊池出発と大津出発の2台とした。

集合場所①：菊池神社横の砂利の駐車場に集合出発 7:00。車乗合で集合出発。中村さん、赤星さん、浦川さん。赤星さんに車をお願いした。

集合場所②：大津生涯学習センターの裏駐車場 集合出発時間：7:00 車乗合で集合出発。 土井、城戸さん、岩下さん、前田さん。土井の車で向かった。

時間経過：三愛レストラン又は長者原駐車場でトイレ休憩し、8:22 吉部登山口駐車場に到着準備、8:50 前には菊池組も到着した。9:14 吉部駐車場出発。9:21 鳴子川の大船林道の橋の手前より入渓鳴子川遡上開始。駐車場は1台300円。

水量は1週間前よりやや少ないが、水はやはり少し濁っており、川底は見えない程度であり、足を取られない様に慎重に遡上した。小滝をいくつも遡上し、F1手目の約5mの滝は右を巻いて通過。

F1約1.2mの滝は圧倒的な水量と瀑音で、左岸から右岸に渡るのに飛び石で渡ったが、水量が多くここはロープを出してロープで確保した後に通過した。F1は苔むした右岸の岩場を巻いて遡上した。

13:18 F2：約5mの暮雨（くらぞめ）の滝に到着。ここで昼食休憩。

13:45 ゆっくり遊んで暮雨の滝から脱渓し登山道を下った。

14:40 吉部駐車場 到着後、準備して帰途。

15:30 法華院温泉 高原テラスにて入浴 400円（日本山岳会の会員割引で）

鉄の色の茶色の温泉。ゆっくりして団欒し振り返り、会計収支終了し

16:15 法華院温泉 高原テラス出発。ここで菊池グループと熊本グループは分れ帰途に着いた。

17:30頃 大津生涯学習センター駐車場到着／菊池神社横の砂利の駐車場到着 解散

感想・考察：水は多くなく、涼しく、長時間水の中にいるとさすがに寒いが、水も極端に冷たくも無く、蜘蛛の巣は沢山あるが虫は多くなく、事故も無く楽しめた山行となった。同日は遡行している他のブループは無く我々のみであった。暮雨の滝では滝裏に行くこともでき、滝壺は泳ぐこともでき楽しめた沢遊びとなった。鳴子沢は初級の沢登りの場所で多くの方に参加経験して頂きたい場所と思われた。沢は岩登りの要素も含んでおり、沢グツ、ヘルメット、ハーネスは必須であり、装備が必要で、敷居が少しあるのかもしれないと参加者の話を伺い感じた。最低必要な道具は沢グツだが、道具の選択の指導も必要であり、使用頻度多くなく、手入れの方法の指南の必要性も感じられた。楽しい沢登りでした、参加者の皆様お疲れ様でした。

収支：赤星さん走行距離下見含めて 166km+142km=308km

25円×308=

7700円

土井走行距離

130km×2=

260km 25円

×260=6500

円 合計

14200円 1

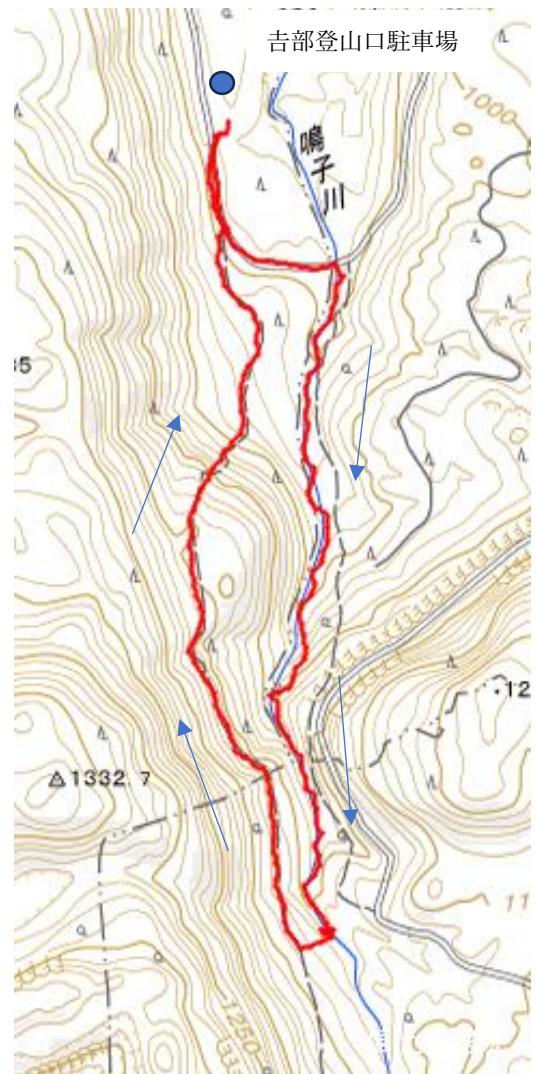
人 2028円

になる為、1

人 2000円の

徴収を行いました。





7 山の日登山祭 in 菊池市 鞍岳

城戸 邦晴

8月11日山の日、晴れていたが時おり大きな雲が日差しを遮る、そういう日だった。

四季の里には朝から旗が掲げられ、横断幕も張られていた。のぼり旗が数本立てられて、7時半には役員が集まり、すぐに一般参加者も続々と来て、200人に迫る勢いだった。今年、スタッフは腕章を着けた。一般参加者にはピンクのリボンをつけてもらった。リボンには参加者番号を付し、これを下山時に回収しチェックして未下山者がいないか判るようにした。これは他の登山者との区別にも役立った。

8時55分にラジオ体操のCDを流すと参加者はみんな自然と体操を始めた。9時には開会セレモニー、県岳連(熊本県山岳・スポーツクライミング連盟)の西本会長の挨拶、土井先生の熱中症の注意、佐藤登山隊長の登山上の注意といずれも短く、式は早く終わった。9時20分過ぎに登山はスタートした。高齢の方や体力不安の方は9合目の東登山口から、元気な方は森林コースか女岳コースを登った。

東登山口を選択した人は多くはなく、9時40分頃から登り始めて10時5分ころ初めの一団は山上鞍部に到着した。涼しい風が吹いていたが雲が去ると日差しが強く気温は上がった。鞍部には日陰が少なかった。岳連によって中央部にタープが張られた。シェルパの人達が大きな荷物を担いで登ってきた。クーラーボックスにOS・1と氷が一杯詰まっていた。登って来た人が氷を頭や首に押し付け、生き返ったーと声を発し、口に含んでいた。廣永峻一さんや松本莞爾さんというベテラン会員が東登山口から登ったが、山上集会まで時間があって、休憩中、新会員勧誘の動きもあり、関心を示した人もいた。

今回は13の分岐点に立哨員が立った。NO3地点で具合が悪くなった人がいた。お昼頃NO11ツームシ分岐付近で動けなくなった人が出た。土井先生、佐藤隊長、西本会長は多忙で走り回っていた。山上集会の時間になったが土井支部長がいない。先に抽選会を始めたが担当のシェルパ阿南社長がいない。中村さんを代役にして始めたが、具合が悪い人が出て中村さんにお呼びがかかる、というように目まぐるしい展開だった。

山上鞍部は日陰が少なく人は日陰から出てこないので心配したが、杞憂だった。抽選会になると皆さん草原の上に集まった。景品は菊池温泉のタオルと無料券が20本、当たりの番号が呼ばれても出てこない人が続出し、全員集合していないことが明白だったが、ノースフェイスのザックが



土井支部長挨拶



高校生山の日宣言

当たると賑わいは最高潮に達した。当たった人は喜色満面で記念の写真に納まっていた。熊日新聞の記者が登ってきていた。マスコミは1社だけだったが、これは時期のせいで、毎年のことだ。

下りは速くてすぐ東登山口に着いたが、そこには戸上さんが立っていてリボンを回収していた。伏石(ブクイシ)登山口では坂本さんや山本さん達が回収している。皆さん、お疲れ様でした。四季の里に戻るとまだ誰も下ってきていない。らくらくコースでも1時間半はかかる。2時半よりのトークショーの準備をしておいて玄関へ出ると、三宅さんたちがリボンのNOを名簿に突合していた。合わない分の処理は佐藤隊長が電話するとのことで回収作業は完結した。

トークショーには50人ほど参加していた。大半の人が帰路についていたが、これは仕方がない。講師は菊池消防署の担当係官で、熱中症とスズメバチの危険が話の中心だった。トークショーの終わったあと閉会式をおこない、3時過ぎに解散となった。

四季の里は美しい環境で、きれいに整備されており快適な場所だった。トークショーと閉会式は室内の旧レストランで(その後臨時役員会も)行ったが、快適だったのは外気が厳しすぎたからばかりではなかっただろう。職員の方の対応も気持ちよかったです。

山の日に登山は暑くてリスクが大きすぎる。近年特に地球上が暑くなり、かつてのように夏山を楽しむという環境ではない。むしろ危険になりつつある。山の日登山祭は日時、場所が今後最大の検討事項だろう。8月11日は、八が山の形をなし11は二本の樹を示すからこの日が選ばれたと言われるが(土井支部長)、他の地区では別な期日を選ぶ動きがあると聞く。来年は熊本支部の担当番だから、早期に検討を始めて意義のある山の日登山祭を実現したいものだ。

(参加者・敬称略)

松本莞爾、廣永峻一、石井文雄、中林暉幸、池田清志、田北芳博、城戸邦晴、山本直、
土井理、田上裕輝(親子で参加)、三宅厚雄、坂本雄二、岩下律雄、中村寛、浦川留美、前田節子、
赤星隆弘、松尾重勝、本田敦子、村上浩明、武田偉幸、志水由紀 合計22名
暑い中、ご参加された方々には、各担当役割もこなしていただき、感謝申し上げます。



当選者景品渡し



来場者受付



シェルパ出店



受付風景



コース立証員打ち合わせ



チラシ配布



ラジオ体操



土井支部長山上挨拶



西本山岳連盟会長挨拶



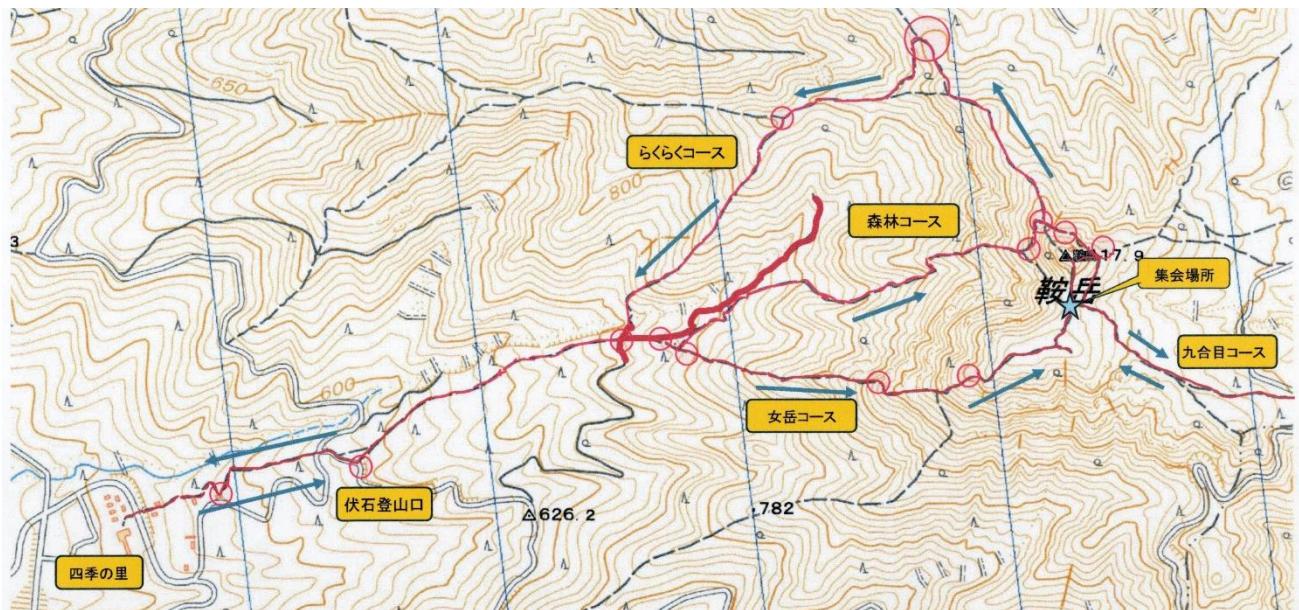
佐藤登山隊長挨拶



タープ設営中



シェルパによる荷物運び



鞍岳鞍部山上集会場の様子



おなじみのメンバー



8 令和6年度ビールパーティ報告

城戸邦晴

期日 8月17日(土) 17時~19時

場所 ダイニングカフェ彩

お盆休みに連なる週末の17日、本年度ビールパーティは熊本市役所14階に位置するレストラン、ダイニングカフェ彩で行われました。この店は、熊本城を目の前に見てまさに展望随一というロケーションで、参加の皆さんには店に入ってきたらまず窓の外に見とれます。お店は貸切状態で(要請はしていなかったのですが)日本山岳会熊本支部が自由にパーティを進行することができました。テーブルは窓に沿って一つに並べられており、マイクも用意されていました。特に注文もせずここまで準備されていたのに驚きました。

参加者は20人、会員会友は19名で田上裕輝さんがお子さんを連れての参加でした。若干少なめの参加でしたが、会場環境とも相俟って、よい雰囲気のパーティとなりました。土井支部長の挨拶の後、顧問の松本莞爾さんの乾杯で始まりました。他の客がいないので大声になることもなく、なごやかに歓談がなされました。

途中、新入会員紹介があり、その後熊本支部今年度後半の行事予定が各行事担当役員から説明されました。ここは皆さん話を聞かず会話を熱中するのではと予想していましたが、意外なことに(失礼)、全員が耳を傾け、資料に目を注いでいました。これはうれしいことでした。よい計画を立て喜んでもらえるよう実行したいと担当者に思わせる雰囲気でした。また厳冬期ハケ岳登山が山岳会の骨脈の流れを踏襲すると期待をもって見られていることを感じました。参加メンバーとして気が引き締まる思いがします。ふたたび歓談になり、最後は顧問の中林暉幸さんの一本締めで閉会しました。歓談の中に紹介と発表を挟むというシンプルな構成でしたが、なごやかで楽しい時間を過ごし、皆さんにも喜んでもらえたことと思います。会場は以前何回か利用したことのあるレストランでしたが、早めの予約がよい結果をもたらしたようです。次の新春晩餐会でも楽しんでもらえるように、準備を早期に始めたいと思います。

解散した後、二次会も行われました。すぐ近くのスナックアムールというお店でしたが、いつもここでやっているので参加者にはなじみの店でした。9名の方が参加されました。途中おいしい焼きそばに夢中になり、意外な人の歌声にも驚かされ、これまた楽しいひとときを過ごせました。

パーティも二次会も、ご参加の皆さんのご協力で楽しく有意義に時間を過ごせたことに感謝いたします。新春晩餐会にもぜひご参加くださいますよう、よろしくお願ひします。



スナック アムールにて

(参加者・敬称略)

松本莞爾、廣永峻一、安場俊郎、中林暉幸、池田清志、田北芳博、城戸邦晴、橋本悦子、山本直、土井理、中村寛、田上裕輝(親子で参加)、岩下律雄、浦川留美、前田節子、松尾重勝、赤星隆弘、木下昭二、武田偉幸



ビールパーティ集合写真

9 会員の異動

会員入会	渡辺心暖、松尾重勝、赤星隆弘
会員退会	阿南誠志

編集後記

今年の夏は猛暑日続きで例年より暑く、私も年のせいか体力が衰えた気がします。低山登山は暑すぎて、長時間は汗だくで歩けません。山の日登山は鞍岳でしたが、熱中症でダウンする人が多数いるのではないかと心配でした。数人は熱中症気味の人がいたとききますが、今年も山の日登山祭は盛大に終わりました。私は写真担当で忙しく動きまわらせて頂きました。役員も一般参加者も楽しく登れて何よりでした。

さて、支部報の編集ですが以前の発行とは少し遅れるのですが、行事や作成日程などを考えると5月、9月、1月がちょうど4ヶ月ごとでやりやすいようです。登山に参加された皆さんの思い出になるような記録誌になるように努めたいと思っています。

毎度のことながら皆さんからの寄稿をお待ちしております。ご自分の普段の思いなども含めてご投稿いただくなれば幸いです。

今回も支部報校正を城戸さんと池田さんにお願い致しました。

田北 芳博 Eメール yt19-57@tune.ocn.ne.jp 田北 09087611471